

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 正文



■ 本市の教育行政を振り返って

私の市長就任後、厚狭の洞玄寺の住職で、教育者としても知られる江澤正思さんに教育長をお願いしました。彼は就任後すぐに義務教育の根本的改革に取り組み、全国的に著名な陰山英男先生の全面的な協力を得て、翌年(平成 18 年)4月から市内の全小中学校で「生活改善・学力向上プロジェクト」に取り組みました。この取り組みは、生活習慣と学力の関係を日本で初めて明示的かつ系統的に示したもので、今では生活習慣の重要性が叫ばれていますが、その全国的な先駆けとなったもので、家庭で取り組むべき生活改善を具体的に示すと共に、学校では「モジュール学習」という短時間集中型の授業形態を全国で始めて導入したものです。

それを発展させて平成 19 年には、県内で初めて総理大臣から教育特区(「幼・保・小・中」生活改善・知能向上教育特区)に認定されました。ちなみに、私が首相官邸で総理大臣から直々に賞状を頂いたのは、この1回限りです。

その後このような短時間授業の形態が全国に普及していますが、こうした全国レベルでの貢献により、平成 20 年、江澤教育長は「日本教育再興連盟賞」を受賞しました。受賞理由には、「早寝・早起き・朝ごはんなど、生活習慣の改善・確立と併せて、その結果を統計学的にも精緻な資料として全国に公表し、教育の力と希望を立証された」と明示されています。また、その取り組みにより教育に占める読書の有効性が確認されたことから、フルタイムの「学校図書館司書」を市内の全小中学校に配置し、今では大きな成果を挙げています。

江澤さんは、社会教育の分野でも、図書館や文化会館の専門性を重視し、館長の全国公募に踏み切るなど、先進的な活動をしてきました。また、新たに「ふるさと文化遺産」制度を創設しています。これは個々の文化・歴史ではなく、ストーリー性を持たせたパッケージとして認定するもので、同趣旨の文化庁の「日本遺産」に先駆けて本市で制度化したものです。

平成 18 年から山口東京理科大学(当時は私立)との共同事業に取り組み、市内小学校での「ほんものの科学体験講座」や、市を挙げての「かがく博覧会」など、科学のまちを目指して取り組んできました。大学の公立化(平成 28 年 4 月)により、今後さらに発展することが期待されます。

教育委員会では、平成 21 年、「児童生徒に社会性を育むための教育環境についての方針」を定めました。これは異なる年齢の児童生徒間の交流と、学校と地域社会とのつながりを、小中連携と地域連携という形でまとめたもので、現在の文部科学省の2大方針を先取りしたものです。この方針に沿って、平成 24 年には厚陽小中施設一体型連携校が県内で初めて開校しましたし、現在工事が進行中の埴生小中施設一体型連携校に隣接する埴生地区複合施設の建設は、厚陽方式を更に進化させて、この縦糸(小中連携)と横糸(地域連携)により教育の中心地を紡ぎ出そうとするものです。

教育長は今年度より、全小中学校のコミュニティー・スクール化を契機に、「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト」に取り組み始めました。学校だけでなく、地域や家庭も一緒に元気に。とても困難ですが夢のあるテーマに挑戦しています。